

障害児の発達 (主に発達障害)

雇用調整助成金研修

令和2年5月26日

本日の流れ

- 1) 自己紹介
- 2) 障害児の発達特性
- 3) 基本的な特性
 - 自閉症スペクトラム
 - ADHD(注意欠如・多動性障害)
 - LD(学習障害)
- 4) 休憩
- 5) こどもが伸びるほめ方、言葉かけ
- 6) こどもが理解できるしかり方
- 7) その他

発達障害のタイプ

◆ 自閉症スペクトラム障害 (ASD)

自閉症・アスペルガー症候群・広汎性発達障害

◆ 注意欠如・多動性障害 (ADHD)

◆ 学習障害 (LD)

障害児の発達特性

生後すぐ

●自閉症スペクトラム

- ・いわゆる「手のかからない赤ちゃん」
- ・泣かない
- ・あやしてもわらわない
- ・視線が合いにくい

●ADHD

- ・特性がみられることはほとんどない
- ・いわゆる「気難しい赤ちゃん」

※発達特性は、生後すぐにはわからない

障害児の発達特性

2～3歳ごろ

●自閉症スペクトラム

- ・言葉が出ない
- ・誰かと遊ぶよりひとりが好き
- ・おもちゃや衣服など一つの物に執着する
- ・名前を呼んでも反応しない
- ・視線を合わせない
- ・ひとりにされても泣かない
- ・眠らない ・偏食が激しい

●ADHD

- ・注意しても話を聞いてない
- ・落ち着きがなく動き回る

※発達の特性が出てくるのは2～3歳ごろから

障害児の発達特性



3～4歳ごろ

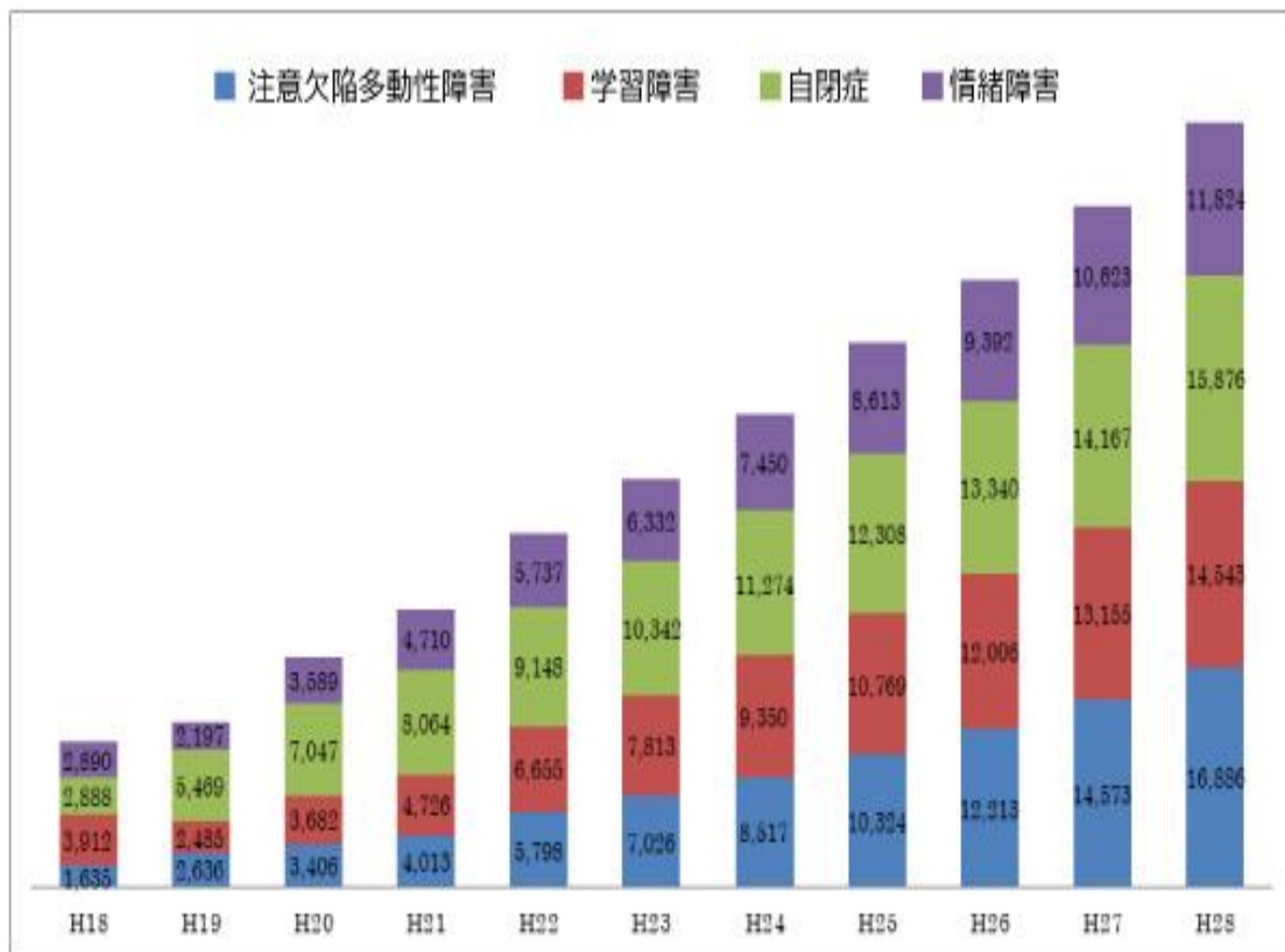
●自閉症スペクトラム

- ・言葉が増えず、会話が成立しにくい
- ・他人との感情の交流がない
- ・儀式的なことにこだわりがみえる
- ・かんしゃくをおこすとおさまりにくい

●ADHD

- ・しつけができない
- ・じっとしていない
- ・興味がクルクル変わる

※確定診断は急がずに、3歳を過ぎてから



基本的な特性： 自閉症スペクトラムの子ども

基本的な3つの特性

①人との関わり方が苦手(社会的なやり取りの障害)

- ・人と目を合わせない
- ・名前を呼ばれても反応しない
- ・相手や状況に合わせた行動が苦手
- ・自己主張が強く一方的な行動が目立つ

③想像力が乏しい・こだわりがある(こだわり行動)

- ・言われたことを字義通りに受け取りやすい
- ・「ままごと遊び」「役割遊び」をあまりしない
- ・決まった順序や道順にこだわる
- ・急に予定が変わるとパニックをおこす

②コミュニケーションがうまくとれない

(コミュニケーション障害)

- ・言葉の遅れ
- ・言われた言葉をそのまま繰り返す(オウム返し)
- ・相手の表情から気持ちを読み取れない
- ・ことわざや皮肉、たとえ話を理解することが苦手

基本的な特性： ADHD（注意欠如・多動性障害）の子ども

3つの基本的な特性

①不注意

- ・物をよくなくす
- ・細かいことに気が付かない
- ・忘れ物が多い
- ・話し声や教室外の音が気になって集中できない
- ・整理整頓が苦手

②衝動性

- ・順番を待てない
- ・先生からあてられる前に答える
- ・他の児童に干渉する
- ・よく考えずに行動する

③多動性

- ・じっとしてられない
- ・授業中も席を立ってウロウロする
- ・静かに遊んだり、読書をしたりすることが苦手
- ・手や足を動かしてそわそわしている

ADHDの子どもとつき合う

「心がまえ4大原則」

1/きつくしからない

2/注意する回数を減らす

3/こどもへの話し方を変える

4/誤解しない

基本的な特性： LD(学習障害)の子ども

LDの基本的な特性は、

6つの学習能力の問題

◆「聞く」ことの障害

◆「推論する」ことの障害

◆「話す」ことの障害

◆「読む」ことの障害

◆「計算する」ことの障害

◆「書く」ことの障害

どうして発達障害になるの？

発達障害の原因は、まだ完全には解明されていません。これまでの研究では、発達障害は脳や脊髄などの中枢神経系の問題であること、脳の細胞レベルの情報伝達機能に何らかの障害がある、ということまでわかってきました。

- 発達障害は育児や環境のせいではない
- 発達障害を個性ととらえる

早めに気づいて、早めに支援を考える

幼児期にチェックしたい

子どもの「サイン」

- ☐ 偏食(食べ物の好き嫌い)
- ☐ 言葉が出ない
- ☐ 文字にまったく興味を示さない
- ☐ 指さしで教えない
- ☐ 人の手を取ってモノを得る(クレーン現象)
- ☐ オウム返しをいう
- ☐ 気に入ったことをいつまでも続けている
- ☐ 目を離すとどこかに行ってしまう
- ☐ 手をつないでいても振り切って行ってしまう
- ☐ 新しいこと、モノ、場所を受け付けない

かんしゃくのサインが出やすいのはこんな時

- 初めての場所では、よくかんしゃくをおこす
- 話しているうちに大きな声を上げてしまう
- 何もしていないのに突然かんしゃくをおこす
- いつもと違う部屋で食事をしようとするとき大声を上げる
- テレビの音量を変えただけでかんしゃくをおこす

事例

● Rちゃん：自閉症

● Mくん：ADHD

● Hくん：自閉症

● Kくん：脳性まひ

「見守ること」の大切さ

- ◆ 特性があってもあまり神経質になる必要はない
- ◆ 親も子どもと一緒に成長し、育ちあう

休憩

こどもが伸びる ほめ方、言葉かけ

◆ 言葉かけの基本は「ほめて」伸ばす

子どもはほめられることで伸びていきます。たとえ小さなことでもほめてあげましょう。

◆ 指示は短く、わかりやすい言葉で具体的に

- ・長い指示が苦手な場合がある
- ・短くわかりやすい単語で、一つひとつははっきりと伝える
- ・大きな声や命令口調は、逆効果

「ダメ！」と否定的で強い言葉で しからない

- ◆否定的にしかるより、やるべきことを指示する
- ◆なにをどうすればいいのか、具体的に示しましょう
(NG) 外で遊んではダメよ
↓言い換え
(OK) 部屋で折り紙をしよう

しかったり注意したりする回数を減らす

子どもの欠点や失敗ばかり目について、一日に何度も子どもをしかったり注意していませんか。

しかる回数を減らすだけでも子どもは安定してきます。

(NG) すぐにゲームをやめなさい

↓言い換え

(OK) 6時になったから、ゲームをやめようね

子どもがとまどう言葉かけを避ける

自閉症スペクトラムの子どもにとって皮肉や冗談、遠回しな言い方など理解しにくい表現があります。

「何を言っているのか」ははっきりわかる直接的な言葉で話しかけましょう。

(NG)

×夕食は少し待って

×早く食べなさい

×テレビはあとで

×脱いだ服はすぐに片づけて

(OK)

→7時になったら夕食よ

→7時30分までに食べ終えよう

→テレビは8時から

→脱いだ服はこのカゴに入れて

毎日の予定表を作って声をかけて確認しよう

特性を持っている子どもは、次に何をやるかわからないと不安になります。

目で確認しやすいように一日のスケジュール表を作ることによって子どもが安心して安定する場合があります。



一日スケジュール表 自閉症/発達障害児 支援 作業療法士作成

子どもが伸びる「ほめ方/言葉かけ」 10の原則

①ほめられたことが伝わるようにほめる

- ・ほめるときの基本は、「できるだけ近くに行って」「視線を合わせ笑顔で」ほめる

②すぐにその場でほめる

- ・子どもがどのような行動でほめられたのかをじっかんできるようにする

③小さな成果を見逃さない

- ・小さなことでもできたことをほめる

子どもが伸びる「ほめ方/言葉かけ」 10の原則

④言葉や態度ではっきりわかるようにほめる

- ・ほめるときの言葉や表情も大切

⑤得意分野を見つけてほめる

- ・できないことは、ある程度無視することが大事
- ・「できないこと」を無理やりやらせるより「できること」を認めてあげることで成長していく

⑥ごほうびをあげるのも一つの方法

- ・言葉よりごほうびが効果的な場合もある

子どもが伸びる「ほめ方/言葉かけ」 10の原則

⑦毎日ほめてあげる

- ・毎日ほめてあげることで、がんばろうという気持ちが続きます。

⑧勉強以外のこともほめる

- ・どんな子どもにも得意なことはある

⑨「がんばっているとき」を見逃さない

- ・子どもがなにをしているとき、つまり「がんばっているとき」を見逃さないで、声をかけてあげましょう。

子どもが伸びる「ほめ方/言葉かけ」 10の原則

⑩ほめるところを見つけたそう

- ・ほめるところが見つからないという前に
- ・ほめるところを見つける努力をしましょう。

子どもが理解できる「しかり方」 10の原則

①できないことをしからない

- ・特性のために「できない」場合があります。
- ・できないことを理解してあげることが大事

②「ダメ！」というだけでは「だめ」

- ・自閉症スペクトラムの子どもは、否定的な言葉に敏感な場合があります。「ダメ！」といったような強い否定的な言葉かけは注意しましょう。

子どもが理解できる「しかり方」 10の原則

③短い言葉で具体的にしかる

- ・しかるときは、長いお説教は効果がありません。できるだけ短くシンプルな言葉を使ってしかりましょう。

④代名詞や抽象的な言葉を避ける

- ・子どもがはっきり理解できる具体的な言葉を使いましょう。

⑤怖い顔をしても効果がない場合がある

- ・自閉症スペクトラムの子どもは、相手の表情や身ぶりを読み取ることが苦手。怖い顔でしかっても子どもには伝わりにくいことがあります。

子どもが理解できる「しかり方」 10の原則

⑥くり返し何度もしからない

- ・特性を持っている子どもは、何度も同じ場面で躓いてしまうことが多いものです。失敗のたびに何度もしかられていると強い劣等感を持ってしまいます。

- ・しかるときは「ここぞ」というタイミングで

⑦子どもの注意を一度ひきつけてからしかる

- ・何かに夢中になっていると、大きな声を出してもしかられていることに気が付かない場合もあります。

子どもが理解できる「しかり方」 10の原則

⑧そのとき、その場ですぐしかる

- ・時間がたってからしかったり、ずっと以前のことを持ち出してきてしかっても効果はありません。問題が起きた時にその場でしかることが基本です。

⑨感情的にならない

- ・いくら注意しても言うことを聞かないとき、つい感情的になってしまいがちですが、そうしたしかり方は逆効果になってしまいます。

- ・子どもに感情をぶつけないことが大切

⑩体罰をしない

- ・体罰は効果がないばかりか、長い目で見れば子どもの成長にとって大きなマイナスになります。

子どもは必ず成長します。
子どもたちの成長を信じて
楽しみながら
育児や保育をしていきましょう

「やる気のスイッチ」を入れる言葉かけ

- ①家庭と学校の連携でトラブルを減らす
- ②始めるときの言葉かけ
- ③子どもとサインや合言葉を決めておく
- ④聞き上手になろう
- ⑤成功する暗示をかける言葉
- ⑥うまくいったことを繰り返しできるようにする
- ⑦ときにはペナルティも必要
- ⑧禁止事項は「説得」より「納得」が大事
- ⑨一日の最後は、ほめ言葉で終わる